



但馬水産技術センターだより



海況情報（K2403号）

令和6年4月11日
兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

1. 日本海海況予報（2024年4月中旬～6月）

日本海における海況の予報をお知らせします。

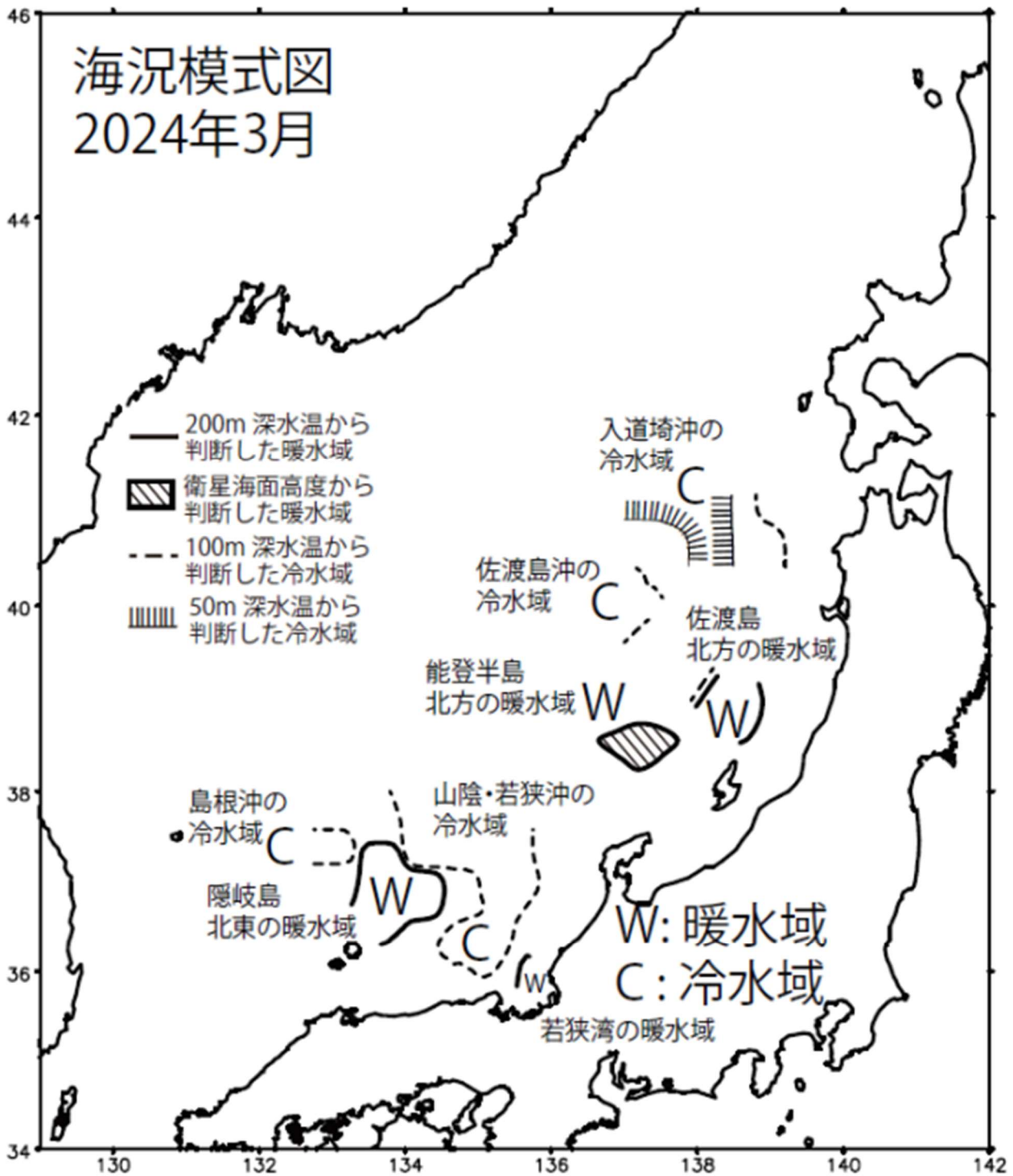
資料1

- ・2024年度第1回日本海海況予報（国立研究開発法人水産研究・開発機構 水産資源研究所）＊観測データの出所は但馬水産技術センターほか各府県等。

（コメント：4月中旬～6月の見通し一部抜粋、別紙の「2024年3月の海況模式図」参照）

- ・ 隠岐島北東の暖水域は弱体化し、消滅。
- ・ 若狭湾の暖水域は北東に移動し、消滅。
- ・ 島根沖の冷水域の張り出しは、規模は「やや小さく」接岸状況は「やや離岸」で経過。
- ・ 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、規模は「やや小さく」接岸状況は「平年並み」で経過。
- ・ 対馬暖流域の表面水温は、「やや高め」で経過。
- ・ 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部ともに「やや高め」で経過。

お問い合わせ先：兵庫県但馬水産技術センター（中村）TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684
email：nourinc_tajima@pref.hyogo.lg.jp
ホームページ：https://www.hyogo-suigi.jp/tajima/



2024年3月の海況模式図

出典：国立研究開発法人水産研究・開発機構
<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2024/index.html>

2024年度 第1回 日本海海況予報

1. 今後の見通し（2024年4月中旬～6月）

- (1) 隠岐島北東の暖水域は弱体化し、消滅する。若狭湾の暖水域は北東に移動し、消滅する。能登半島北方の暖水域は勢力を拡大しながらやや西進し、能登半島北西に分布する。佐渡島北方の暖水域は弱体化し、消滅する。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しは、やや小さくやや離岸で経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや小さく接岸距離は平年並みで経過する。佐渡沖の冷水域の張り出しは、やや小さくやや離岸で経過する。入道崎沖の冷水域の張り出しは、やや小さくかなり離岸で経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、日本海西部及び北部ともに“やや高め”で経過する。

2. 経過（(1)は2023年11月～24年3月、(2)～(3)は2023年11月～24年2月、(4)は2023年11月）

- (1) 11月に隠岐島北北東に見られた暖水域は12月以降にはデータが少なく確認できない。11月に隠岐島はるか北北東に見られた暖水域は勢力を拡大しながら南下し、3月に隠岐島北東に分布。11月に能登半島北西に見られた暖水域は勢力を増減しつつ、3月に能登半島北方に移動。11月に富山湾および上越沿岸に見られた暖水域は12月に合体し、2月まで上越沿岸に停滞した後、3月に消滅。11月に青森沿岸に見られた暖水域は2月に流出。2月に佐渡島北方に暖水域が出現し、南へ勢力を拡大。3月に若狭湾に暖水域が出現。
- (2) 島根沖の冷水域は、11月はかなり小さくやや離岸、12月はやや小さくはなはだ離岸、2月はかなり小さくやや離岸。山陰・若狭沖の冷水域は、11月はやや大きく接岸距離は平年並み、12月の規模は平年並みでやや離岸、2月は規模・接岸距離ともに平年並み。佐渡島沖の冷水域は、11・12月は規模・接岸距離ともに平年並み、2月はやや小さくかなり離岸。入道崎沖の冷水域は、11月は、はなはだ小さくやや離岸、12月はデータが少なく不明、2月はやや小さくやや離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、11月は、佐渡島北方で“平年並み”、隠岐島周辺、若狭湾、能登半島北岸、能登半島はるか北方、山形沿岸で“はなはだ高め”、それ以外は“やや高め”～“かなり高め”。12月は、能登半島北東で“やや低め”～“かなり低め”、山口沿岸、隠岐島周辺～隠岐島北方、能登半島北岸、佐渡海峡～佐渡北方で“平年並み”、対馬海峡西水道、富山湾、下越沿岸、北海道道北沿岸で“はなはだ高め”、それ以外は“やや高め”～“かなり高め”。2月は、富山湾、石狩湾で“かなり低め”、下越沿岸、秋田沿岸で“やや低め”、若狭湾、金沢沿岸～能登半島北西、佐渡島北西、積丹半島西方で“かなり高め”、それ以外は“平年並み”～“やや高め”。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、日本海西部で“はなはだ高め”、北部で“かなり高め”。

3. 現況（2024年3月）

- (1) 暖水域は、隠岐島北東、若狭湾、能登半島北方、佐渡島北方に分布。
- (2) 島根沖の冷水域はデータが少なく不明。山陰・若狭沖の冷水域は、規模・接岸距離ともに平年並み。佐渡沖の冷水域は、やや小さくやや離岸。入道崎沖の冷水域は、やや小さくかなり離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、能登半島西方、佐渡島北方、青森西方で“かなり高め”、青森はるか西方で“はなはだ高め”、それ以外は“平年並み”～“やや高め”。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、日本海西部で“平年並み”、北部で“かなり高め”。

（註）この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2022年3月より運用を開始した FRA-ROMSⅡ システムを主に用いて実施し、気象庁による北陸地方の気温の3か月予報（4月～6月）も参考にした。

引用符（“ ”）で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

“はなはだ高め（低め）”：22年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ（低さ）

“かなり高め（低め）”：7年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ（低さ）

“やや高め（低め）”：3年に1回の出現確率である1℃程度の高さ（低さ）

“平年並み”：2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温

出典：国立研究開発法人水産研究・開発機構

<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2024/index.html>